
秋の季節に

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秋の季節に

【Nコード】

N3358W

【作者名】

【あらすじ】

秋の季節に決まって庭で酒を飲むおじいちゃん。

おじいちゃんが昔、おばあちゃんと出会う前に最愛の人がいた戦争がきっかけで離れ離れになるが、おじいちゃんはその人を愛し続けた

ロマンチックな哀愁を漂わせる短編ラブストーリー。

ずっと変わらないものが素晴らしいことかもしれない
おじいちゃんが言っていた

季節は秋で庭の木々の葉っぱは緑から赤茶色に変わっていた
おじいちゃんは秋の季節になると毎日庭に出てこの移り変わった
葉っぱたちを見ていた

庭の椅子に腰をかけて、昼間からというのにお酒を飲み、タバコ
を吸った

あんなに苦い飲み物を大人はなぜ飲めるのかが不思議で仕方なか
った

おじいちゃんには昔、最愛の人がいたらしい
それもおばあちゃんと結婚する前のことだ

おじいちゃんは太平洋戦争に行く前にその人に出会った

おじいちゃんが21歳の時、戦争の兵隊として徴兵された
おじいちゃんにはそれまでずっと仲が良かった幼馴染がいた
吉田よねこさんという女性だった

おじいちゃんの家とよねこさんの家は近所でお母さん同士がとて
も仲が良く

知らず知らずのうちにおじいちゃんとよねこさんは仲良くなって
いった

小、中、高と学校も同じでよく2人で遊んでいた
おじいちゃんはいっしかよねこさんのことを好きになっていった
おじいちゃん曰く、よねこさんも同じ気持ちだったそうだ

そして、おじいちゃんが21になった時、2人は離れ離れになった
戦争が終わり、おじいちゃんは運よく生き残り、家に帰れた
しかし、ご近所さんたちがおじいちゃんを中傷した
なぜなら、戦争でお国のために死んでいった人たちがいたからだ

おじいちゃんはよねこさんに会いたかった
また会うためには死ぬわけにはいけなかった
だから周りから何を言われようが構わなかった

おじいちゃんが家に帰ったときには、もうよねこさんの姿は無か
った

激しい空襲で落ちてきた建物にうもれてしまったんだとよねこさ
んのお母さんが話してくれた

もし、おじいちゃんがずっとかわらずによねこさんと一緒にい続
けることができたなら

もし、そもそも戦争なんか起こらず、平凡な毎日が繰り返されて
いたならば

ぼくはずっとときみを愛し続けただろう
とおじいちゃんは言っていた

来年もまた秋の季節が巡り

毎年、巡りめぐってくる侘しい秋の到来を

おじいちゃんは心の底から待っているのかも知れない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3358w/>

秋の季節に

2011年10月9日16時00分発行